

平成 27 年度  
国内旅行業務取扱管理者試験問題

次の注意事項に従って解答してください。(全27ページ)

なお、本試験問題は、平成27年 6 月 1 日現在を基準としています。

〔注意事項〕

1. 答は、別の解答用紙（マークシート）に記入してください。
2. マークは濃度HBまたはBの鉛筆（シャープペンシルを含む。）を使用し、濃くきれいに塗りつぶしてください。  
なお、訂正は消しゴムで、きれいに消し、消しくずを残さないでください。
3. 印刷が不鮮明なものや頁の欠落がありましたら取り替えますので、着席したまま手を挙げてください。
4. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
5. 解答用紙（マークシート）は、白紙であっても必ず提出してください。
6. 解答用紙（マークシート）の記入に当たっては、次の例に従ってください。指示に従わない場合は、採点されません。

(1) 試験地、受験番号及び氏名欄の記入例

〔記入例〕 試験地 北海道 受験番号 00999番 全旅 太郎の場合

試験地		受験番号	フリガナ	ゼンリョ	タロウ
北海道	宮城県	埼玉県	東京都	愛知県	
大阪府	広島県	福岡県	沖縄県		

0	0	9	9	9
---	---	---	---	---

氏名	全旅 太郎
----	-------

(注意事項)

1. 「試験地」欄は該当箇所をマークしてください。「受験番号」欄は数字で記入してください。(記入見本参照)
2. マークは濃度HBまたはBの鉛筆（シャープペンシルを含む。）を使用し、濃くきれいに塗りつぶしてください。
3. この解答用紙を汚したり折り曲げたりしないでください。
4. 白紙であっても必ず提出してください。持ち帰ることはできません。

(2) 解答欄

次の例にならって、マークで解答してください。

良い例	悪い例				
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

指示があるまで開いてはいけません。  
問題の内容に関する質問にはお答えできません。

**【配 点】**

**1 旅行業法及びこれに基づく命令**

各 4 点×25問

**2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款**

各 4 点×25問

**3 国内旅行実務**

1.～5. 各 2 点×25問

6.(1) 各 3 点× 2問

6.(2)～10. 各 4 点×11問

# 1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の記述から、法第1条「目的」に定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業務に関する取引の公正の維持
- b. 旅行の安全の確保
- c. 旅行者の利益の確保
- d. 旅行業の健全な発展

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, d                      エ. c, d

(2) 報酬を得て、次の行為を事業として行う場合、旅行業の登録を受けなければならないものはどれか。

- ア. 旅行業を営む者のため、宿泊サービスを提供する者と契約を締結する行為
- イ. タクシー会社が、自ら所有するタクシーを用いて市内観光を目的とする日帰り旅行を旅行者に販売する行為
- ウ. 宿泊業者が、旅行者の依頼により他人の経営する貸切バスを手配する行為
- エ. 査証の取得代行を業としている者が、旅行業者等の依頼を受けて旅行者の査証取得のための手続を代行する行為

(3) 旅行業等の登録に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者代理業の新規登録の申請をしようとする者は、所属旅行業者の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に新規登録申請書を提出しなければならない。
- イ. 旅行業者が、登録の有効期間の満了の日までに更新登録の申請を行った場合において、登録行政庁から更新登録又は登録拒否の通知があるまでの間は、当該申請に係る登録は従前の登録の有効期間の満了後も、なおその効力を有する。
- ウ. 旅行業の有効期間の更新の登録がなされたときは、その登録の有効期間は、従前の登録の有効期間の満了の日から起算するものとする。
- エ. 旅行業者代理業者の登録の有効期間は、登録の日から起算して5年である。

(4) 登録業務範囲に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第1種旅行業者は、すべての旅行業務を取り扱うことができる。
- イ. 第2種旅行業者は、本邦外の企画旅行（旅行者からの依頼により旅行に関する計画を作成し、これにより実施するものに限る。）を実施することができる。
- ウ. 第3種旅行業者は、法第14条の2第1項の規定により、第1種旅行業者を代理して本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を取り扱うことができる。
- エ. 地域限定旅行業者は、企画旅行は一切実施できないが、一の行為ごとに一の拠点区域内における手配旅行については取り扱うことができる。

(5) 次の記述のうち、旅行業等の登録の拒否事由に該当しないものはどれか。

- ア. 営業に関し成年者と同一の行為能力を有する未成年者でその法定代理人が法第6条第1項第1号から第3号又は第6号のいずれにも該当しないもの。
- イ. 法人であって、その役員のうち破産者で復権を得ない者があるもの。
- ウ. 営業所ごとに、法第11条の2の規定による旅行業務取扱管理者を確実に選任すると認められない者。
- エ. 第2種旅行業を営もうとする者であって、その基準資産額が300万円であるもの。

(6) 変更登録等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、法人の場合、その代表者の氏名について変更があったときは、その日から14日以内に、国土交通省令で定める書類を添付してその旨を登録行政庁に届け出なければならない。
- イ. 旅行業者は、新たに、本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するもの）を実施できるように業務の範囲を変更しようとするときは、その日から30日以内に、その旨を登録行政庁に届け出なければならない。
- ウ. 旅行業者代理業者は、第3種旅行業へ変更登録をしようとするときは、当該旅行業者代理業者の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。
- エ. 第3種旅行業者は、主たる営業所の所在地が都道府県の区域を異にする所在地に変更があったときは、その日から30日以内に、変更後の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に登録事項変更届出書を提出しなければならない。

(7) 営業保証金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、営業保証金の供託をしたときは、供託物受入れの記載のある供託書の写しを添付して、その旨を登録行政庁に届け出なければならない。
- イ. 登録行政庁は、旅行業の登録をした場合において、登録の通知を受けた日から14日以内に旅行業者が法第7条第2項の届出をしないときは、その定める7日以上期間内にその届出をすべき旨の催告をしなければならない。
- ウ. 営業保証金は、現金以外では、国債証券、地方債証券に限り供託に充てることができる。
- エ. 営業保証金の供託は、旅行業者の主たる営業所の最寄りの供託所にしなければならない。

(8) 旅行業務取扱管理者の選任に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者等は、禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わった日から5年を経過していない者であっても、旅行業務取扱管理者試験に合格した者であれば、旅行業務取扱管理者として選任することができる。
- イ. 旅行者等は、旅行業務に従事した経験が1年未満である者を営業所の旅行業務取扱管理者として選任することはできない。
- ウ. 旅行者等は、その営業所の旅行業務取扱管理者として選任した者のすべてが欠けるに至ったときは、新たに旅行業務取扱管理者を選任するまでの間は、その営業所では旅行に関する相談に応ずる行為に関してであっても、旅行者と契約を締結することができない。
- エ. 旅行者代理業者の営業所については、旅行業務を取り扱う者が1人である場合、所属旅行者によって選任された旅行業務取扱管理者が、当該旅行者代理業者の営業所の旅行業務取扱管理者を兼任することができる。

(9) 次の記述から、旅行業務取扱管理者の職務として定められていないもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 法第4条の規定による登録の申請に関する事項
- b. 法第12条の規定による料金の掲示に関する事項
- c. 法第12条の5の規定による書面の交付に関する事項
- d. 法第12条の6の規定による外務員の証明書携帯等に関する事項

ア. a, c                      イ. a, d                      ウ. b, c                      エ. b, d

(10) 旅行者から收受する旅行業務の取扱いの料金（企画旅行に係るものを除く。）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者は、事業の開始前に旅行業務の取扱いの料金を定め、これをその営業所において旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
- イ. 旅行者代理業者は、その営業所において、自ら定めた旅行業務の取扱いの料金について、所属旅行者に届け出なければならない。
- ウ. 旅行者は、旅行業務の取扱いの料金を変更するときは、変更後30日以内に登録行政庁に届け出なければならない。
- エ. 旅行業務の取扱いの料金は、契約の種類及び内容に応じて定率、定額その他の方法により定められ、旅行者にとって明確でなければならない。

(11) 旅行業約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者が、観光庁長官及び消費者庁長官が定めて公示した標準旅行業約款と同一の旅行業約款を定めたときは、その旅行業約款については、観光庁長官による認可を受けたものとみなす。
- イ. 旅行業者代理業者にあつては、自ら定めた旅行業約款をその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
- ウ. 契約の変更及び解除に関する事項は、旅行業約款の記載事項として定められている。
- エ. 責任及び免責に関する事項は、旅行業約款の記載事項として定められている。

(12) 取引条件の説明に関する次の記述のうち、旅行業者等が旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合の説明事項として定められていないものはどれか。

- ア. 企画旅行を実施する旅行業者の氏名又は名称
- イ. 契約に係る旅行業務取扱管理者の氏名
- ウ. 旅行の目的地を勘案して、旅行者が取得することが望ましい安全及び衛生に関する情報がある場合にあつては、その旨及び当該情報
- エ. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価及びその收受の方法

(13) 旅行業者等が旅行者と旅行業務に関し契約を締結したときに交付する書面に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 企画旅行契約を締結した場合にあつては、旅程管理業務を行う者の同行の有無に関する事項について書面に記載しなければならない。
- イ. 企画者以外の者が企画者を代理して企画旅行契約を締結した場合にあつては、その旨並びに当該代理人の氏名又は名称及び住所並びに登録番号を書面に記載しなければならない。
- ウ. 企画旅行契約以外の旅行業務に関する契約を締結した場合であっても、対価と引換えに当該旅行に関するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付したとき及び旅行の相談に応ずる行為に係る旅行業務に関する契約を締結したときは、国土交通省令・内閣府令で定める事項を記載した書面の交付を要しない。
- エ. 企画旅行契約を締結した場合で、旅程管理業務を行う者が同行しない場合にあつては、旅行地における企画者との連絡方法を書面に記載しなければならない。

(14) 外務員に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 外務員の証明書は、国土交通省令で定める様式とする。
- イ. 外務員は、旅行者が悪意であったときを除き、その所属する旅行業者等に代わって、旅行者との旅行業務に関する取引についての一切の裁判外の行為を行う権限を有するものとみなされる。
- ウ. 旅行業者等は、その営業所以外の場所でその旅行業者等のために旅行業務について取引を行う者に、外務員の証明書を携帯させなければ、その者を外務員としての業務に従事させてはならない。
- エ. 旅行業者代理業者の役員又は使用人は、営業所において旅行者との取引を行うときは、所属旅行業者から外務員の証明書の交付を受け、旅行者に提示しなければならない。

(15) 次の記述のうち、企画旅行に参加する旅行者を募集するための広告の表示事項として定められていないものはどれか。

- ア. 旅行者が提供を受けることができる運送、宿泊又は食事のサービスの内容に関する事項
- イ. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価に関する事項
- ウ. 旅行中の損害の補償に関する事項
- エ. 旅程管理業務を行う者の同行の有無

(16) 次の記述から、旅行業務について広告をするとき、誇大表示をしてはならない事項として定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 感染症の発生の状況その他の旅行地における衛生に関する事項
- b. 旅行地における旅行者の安全の確保に関する事項
- c. 旅行中の旅行者の負担に関する事項

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c

(17) 標識に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者等以外の者は、国土交通省令で定める様式の標識又はこれに類似する標識を掲示してはならない。
- b. 旅行業者等は、営業所において、旅行業と旅行業者代理業との別及び本邦内の旅行のみについて旅行業務を取り扱う営業所とそれ以外の営業所との別に応じ国土交通省令で定める様式の標識を、公衆に見やすいように掲示しなければならない。
- c. 標識の地の色は、旅行業者代理業者のものにあつては白に限られる。
- d. 旅行業者等の標識には、当該旅行業者等の住所を記載する。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. c, d                      エ. a, b, d

(18) 旅程管理のための措置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行に関する計画における2人以上の旅行者が同一の日程により行動することを要する区間における円滑な旅行の実施を確保するために必要な集合時刻、集合場所その他の事項に関する指示をしなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行に関する計画に定めるサービスの旅行者への確実な提供を確保するために旅行の開始前に必要な予約その他の措置を講じなければならない。
- ウ. 旅行業者は、本邦外の旅行であつて、契約の締結の前に旅行者に旅程管理の措置を講じない旨を説明し、かつ、当該旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付した場合は、旅行地において旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じなくてもよい。
- エ. 旅行業者は、本邦外の旅行であつて、旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が発生した場合は、代替サービスの手配及び当該サービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じなければならない。

(19) 禁止行為に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者等は、書面による旅行者の承諾があった場合に限り、営業所に掲示した旅行業務の取扱いの料金を超えて料金を収受することができる。
- イ. 旅行者等の従業者は、その取り扱う旅行業務に関連して、旅行者に対し、旅行地において特定のサービスの提供を受けること又は特定の物品を購入することを強要してはならない。
- ウ. 旅行者等の従業者は、その取り扱う旅行業務に関連して、旅行者に対し、旅行地において施行されている法令に違反する行為を行うことに関し便宜を供与したとしても、当該行為を行うことをあつせんしなければ禁止行為に該当しない。
- エ. 旅行者等は、旅行業務に関し取引をした者に対し、その取引によって生じた債務の履行をいかなる理由があっても遅延してはならない。

(20) 受託契約に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 委託旅行者及び受託旅行者は、受託契約において、委託旅行者を代理して企画旅行契約を締結することができる受託旅行者又はその受託旅行者代理業者の営業所を定めておかなければならない。
- イ. 第3種旅行者は、第1種旅行者の受託旅行者となることができる。
- ウ. 旅行者代理業者は、所属旅行者の承諾を得れば、他の旅行者と直接受託契約を締結することができる。
- エ. 旅行者は、他の旅行者が実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）について、複数の旅行者と受託契約を締結することができる。

(21) 旅行者代理業者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者代理業者の所属旅行者がその事業を廃止し、登録行政庁にその旨を届け出て旅行業の登録を抹消されたときは、当該旅行者代理業者の登録は、効力を失う。
- イ. 所属旅行者は、いかなる場合であっても、旅行者代理業者が旅行業務につき旅行者に加えた損害を賠償する責めに任ずる。
- ウ. 旅行者代理業者は、旅行業務に関し取引をしようとするときは、所属旅行者の氏名又は名称を明示すれば、旅行者代理業者である旨を取引の相手方に明示する必要はない。
- エ. 旅行者代理業を営もうとする者は、地域限定旅行者を所属旅行者とすることはできない。

(22) 登録の取消し等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 登録行政庁は、旅行者が不正の手段により有効期間の更新の登録を受けたときは、6箇月以内の期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じ、又はその登録を取り消すことができる。
- イ. 登録行政庁は、旅行者等が登録を受けてから6箇月以内に事業を開始していないと認めるときは、その登録を取り消すことができる。
- ウ. 登録行政庁は、旅行者等が登録を受けてから引き続き6箇月間事業を行っていないと認めるときは、その登録を取り消すことができる。
- エ. 登録行政庁は、旅行者代理業者の役員について、現に所属旅行者の役員である者が当該旅行者代理業者の役員を兼任することとなったときは、その登録を取り消すことができる。



(23) 次の記述から、登録行政庁が旅行者等に命ずることができる措置（業務改善命令）として定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業約款を変更すること。
- b. 旅行者に生じた損害を賠償するために必要な金額を担保することができる保険契約を締結すること。
- c. 旅行業務の取扱いの料金又は企画旅行に関し旅行者から収受する対価を変更すること。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c

(24) 次の記述から、旅行業協会が適正かつ確実に実施しなければならない業務として定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者及び旅行に関するサービスを提供する者からの旅行者等の取り扱った旅行業務に対する苦情の解決
- b. 旅行業務に関する取引の公正を確保するために、旅行者等の営業所若しくは事務所に立ち入り、業務の状況又は設備、帳簿、書類その他の物件の検査の実施
- c. 旅行業務の取扱いに従事する者に対する研修
- d. 旅行業務に関し社員である旅行者又は当該旅行者を所属旅行者とする旅行者代理業者と取引をした旅行者に対し、その取引によって生じた債権に関し弁済をする業務

ア. a, d                      イ. b, c                      ウ. a, c, d                      エ. a, b, c, d

(25) 弁済業務保証金制度に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業協会に加入しようとする旅行者は、その加入しようとする日までに、所定の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- イ. 保証社員は、変更登録を受けた場合においてその弁済業務保証金分担金の額が増加することとなるときは、変更登録を受けた日から30日以内に、その増加することとなる額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- ウ. 還付充当金を納付すべき通知を受けた保証社員は、その通知を受けた日から7日以内に、その通知された額の還付充当金を旅行業協会に納付しなければならない。
- エ. 保証社員は、弁済業務規約の変更により弁済業務保証金分担金の額が増額されたときは、弁済業務規約で定める期日までに、その増額分の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。

## 2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

1. 標準旅行業約款に関する以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 募集型企画旅行契約の部「適用範囲」「用語の定義」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 「募集型企画旅行」とは、旅行業者が、旅行者の募集のためにあらかじめ、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- b. 約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習によるが、ここでいう法令とは、旅行業法及び内閣府・国土交通省令に限られる。
- c. 「海外旅行」とは、約款に定める「国内旅行」以外の旅行をいう。
- d. 旅行業者が「通信契約」により募集型企画旅行契約を締結できる旅行者は、旅行業者又は旅行業者の募集型企画旅行を旅行業者を代理して販売する会社が提携するクレジットカード会社のカード会員である。

ア. a, b, c      イ. a, b, d      ウ. a, c, d      エ. b, c, d

(2) 募集型企画旅行契約の部「契約の申込み」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 通信契約の申込みをしようとする旅行者は、申込みをしようとする募集型企画旅行の名称、旅行開始日、会員番号その他の事項を旅行業者に通知しなければならない。
- b. 申込金は、旅行代金又は取消料若しくは違約料の一部として取り扱われる。
- c. 旅行者が募集型企画旅行の参加に際し、特別な配慮を必要とする旨を、契約の申込時に申し出たときは、旅行業者は可能な範囲内でこれに応じ、この申出に基づき、旅行業者が旅行者のために講じた特別な措置に要する費用は、旅行業者の負担とする。

ア. a, b      イ. a, c      ウ. b, c      エ. a, b, c

(3) 募集型企画旅行契約の部「電話等による予約」「契約締結の拒否」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による契約の予約を受け付ける。
- イ. 旅行者が、暴力団員、暴力団準構成員、暴力団関係者、暴力団関係企業又は総会屋等その他の反社会的勢力であると認められるときは、旅行業者は、契約の締結に応じないことがある。
- ウ. 旅行業者が旅行者から電話等による予約を受け付け、その承諾の旨を通知した後、旅行業者が定める期間内に、当該旅行者から申込書と申込金の提出があったとき又は会員番号等の通知があったときは、契約の締結の順位は、当該予約の受付の順位による。
- エ. 旅行者が旅行業者の定める期間内に申込金を提出しない場合又は会員番号等を通知しない場合は、旅行業者は、予約がなかったものとして取り扱い、違約料を申し受ける。

(4) 募集型企画旅行契約の部「契約の成立時期」「契約書面の交付」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 契約は、通信契約である場合を除き、旅行業者が契約の締結を承諾し、当該旅行業者が別に定める金額の申込金を受理した時に成立する。
- イ. 通信契約は、旅行業者が契約の締結を承諾する旨の通知を発した時に成立するが、当該契約において電子承諾通知を発する場合は、当該通知が旅行者に到達した時に成立する。
- ウ. 旅行業者は、旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した契約書面を契約の成立前に旅行者に交付しなければならない。
- エ. 旅行業者が契約により手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、契約書面に記載するところによる。

(5) 募集型企画旅行契約の部「確定書面」「情報通信の技術を利用する方法」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約書面において、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称を記載できない場合には、当該契約書面において利用予定の宿泊機関及び表示上重要な運送機関の名称を限定して列挙した上で、当該契約書面交付後、旅行開始日の前日（旅行開始日の前日から起算してさかのぼって7日目に当たる日以降に契約の申込みがなされた場合にあっては、旅行開始日）までの当該契約書面に定める日までに、これらの確定状況を記載した書面を交付する。
- イ. 確定書面の交付前に、手配状況の確認を希望する旅行者から問い合わせがあったときは、旅行業者は、迅速かつ適切にこれに回答する。
- ウ. 旅行業者が旅行者に確定書面を交付した場合には、旅行業者が契約により手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、当該確定書面に記載するところに特定される。
- エ. 旅行業者は、あらかじめ旅行者の承諾を得て、契約書面又は確定書面の交付に代えて、情報通信の技術を利用する方法により当該書面に記載すべき事項を提供したときは、旅行者の使用する通信機器に備えられたファイルに記載事項が記録されたことの確認は要しない。

(6) 募集型企画旅行契約の部「旅行代金」「旅行代金の額の変更」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、運送・宿泊機関等の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、契約の成立後に旅行業者の責に帰すべき事由によらず当該利用人員が変更になったときは、契約書面に記載したところにより旅行代金の額を変更することがある。
- b. 通信契約を締結したときは、旅行業者は、提携会社のカードにより所定の伝票への旅行者の署名なくして契約書面に記載する金額の旅行代金の支払いを受ける。
- c. 旅行業者は、約款の定めるところにより旅行代金を増額するときは、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって13日目に当たる日より前に旅行者にその旨を通知しなければならない。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c

(7) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の交替」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者と契約を締結した旅行者は、当該旅行業者の承諾を得て、契約上の地位を第三者に譲り渡すことができる。
- b. 旅行者は、契約上の地位を第三者に譲り渡す場合においては、旅行業者所定の用紙に所定の事項を記入の上、所定の金額の手数料とともに、旅行業者に提出しなければならない。
- c. 契約上の地位の譲渡は、旅行業者の承諾があった時に効力を生じる。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c

(8) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権」に関する次の記述から、旅行者が旅行開始前に契約を解除するに当たって、取消料の支払いを要しないもののみをすべて選んでいるものはどれか（いずれも取消料の支払いを要する期間内の解除とする。）。

- a. 旅行目的地において大型台風による洪水が発生し、旅行の安全かつ円滑な実施が不可能となったとき。
- b. 旅行者から、当該旅行者の父親の死亡を理由として、契約の解除の申し出があったとき。
- c. 旅行者が足を骨折して入院したため、旅行に参加できなくなったとき。
- d. 旅行を実施するに当たり利用する運送機関の適用運賃・料金が、著しい経済情勢の変化等により、旅行の募集の際に明示した時点において有効なものとして公示されている適用運賃・料金に比べて、通常想定される程度を大幅に超えて増額された場合において、その増額された金額の範囲内で旅行代金の額が増額されたとき。

ア. a, b                      イ. a, d                      ウ. b, c                      エ. c, d

(9) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権等－旅行開始前の解除」「旅行者の解除権－旅行開始後の解除」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか（いずれの場合も解除に係る旅行者への理由説明は行うものとする。）。

ア. 旅行者は、旅行者が契約書面に記載する期日までに旅行代金を支払わないときは、当該期日において旅行者が契約を解除したものとする。

イ. 旅行者は、旅行開始後において、官公署の命令により、旅行の継続が不可能となったときは、契約の一部を解除することがある。

ウ. 旅行者は、旅行開始後において、旅行者が旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員の指示への違背により団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるときは、契約の一部を解除することがある。

エ. 旅行者は、旅行開始後において、旅行者が必要な介助者の不在により、旅行の継続に耐えられないときは、契約の一部を解除することがある。

(10) 募集型企画旅行契約の部「団体・グループ契約」「契約責任者」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

ア. 旅行者は、特約を結んだ場合を除き、契約責任者はその団体・グループを構成する旅行者（本問において、以下「構成者」という。）の契約の締結に関する一切の代理権を有しているものとみなす。

イ. 契約責任者は、旅行者が定める日までに、構成者の名簿を旅行者に提出しなければならない。

ウ. 旅行者は、契約責任者が構成者に対して現に負い、又は将来負うことが予測される債務又は義務については、その責任の一部を負う。

エ. 旅行者は、契約責任者が団体・グループに同行しない場合、旅行開始後においては、あらかじめ契約責任者が選任した構成者を契約責任者とみなす。

(11) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の責任」に関する次の記述から、誤っているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

a. 旅行者が故意又は過失により旅行者に損害を与えた場合で、旅行者が損害賠償責任を負うのは、損害発生の翌日から起算して1年以内に旅行者から旅行者に対して通知があったときに限られる。

b. 手配代行者の過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、当該手配代行者がその損害を賠償する責に任じ、旅行者はその責に任じない。

c. 旅行者の過失で旅行者の手荷物について生じた損害については、損害発生の翌日から起算して、国内旅行にあっては14日以内に、旅行者から旅行者に対して通知があったときに限り、旅行者は、旅行者1名につき15万円を限度（旅行者に故意又は重大な過失がある場合を除く。）として賠償する。

ア. a, b

イ. a, c

ウ. b, c

エ. a, b, c

(12) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、旅行者に対し企画書面を交付することにより、契約書面の交付に代えることができる。
- b. 旅行業者は、契約の申込みをしようとする旅行者からの依頼があったときは、旅行業者の業務上の都合があるときを除き、当該依頼の内容に沿って作成した旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件に関する企画の内容を記載した企画書面を交付する。
- c. 旅行業者は、企画書面において、旅行代金の内訳として企画料金の金額を明示することができる。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c

(13) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行中の旅行者が、疾病、傷害等により保護を要する状態にあると認めるときは、必要な措置を講ずることがある。この場合において、これが旅行業者の責に帰すべき事由によるものでないときは、当該措置に要した費用は旅行者の負担とする。
- イ. 旅行業者は、通信契約である場合を除き、団体・グループ契約において契約責任者と契約を締結する場合において、申込金の支払いを受けることなく契約を締結する旨を記載した書面を交付することにより契約を成立させることがある。
- ウ. 旅行業者は、旅程を管理する義務を負わない。
- エ. 旅行者は、旅行業者に対し、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容を変更するよう求めることができる。

(14) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、約款に定める契約内容の重要な変更が生じた場合において、変更補償金を支払うこととなったときは、旅行終了日の翌日から起算して30日以内に当該変更補償金を旅行者に支払う。
- イ. 旅行業者は、支払うべき変更補償金の額が、旅行者1名に対して1企画旅行につき1,000円であるときは支払わない。
- ウ. 旅行業者が旅行者に変更補償金を支払った後に、当該変更が旅行業者又は手配代行者の過失によるものであることが明らかになった場合には、旅行者は、当該変更に係る変更補償金を旅行業者に返還しなければならない。
- エ. 旅行業者が支払うべき変更補償金の額は、旅行者1名に対して1企画旅行につき旅行代金に15%以上の旅行業者が定める率を乗じた額をもって限度とする。

(15) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述から、変更補償金の支払いを要するもののみをすべて選んでいるものはどれか（いずれも変更補償金の額は、約款に定める支払いが必要な最低額を上回っているものとする。）。

- a. 確定書面には、旅行開始日の利用航空会社として「A航空会社のエコノミークラス」と記載されていたが、A航空会社の過剰予約受付のため利用できなくなり、翌日早朝発のB航空会社のビジネスクラスに変更になったとき（契約書面にB航空会社も利用予定の航空会社として記載があるものとする。）。
- b. 契約書面に「東京スカイツリー天望デッキから隅田川花火大会見学」と記載されていたが、ゲリラ豪雨により花火大会が中止となり、天望デッキへの入場だけに変更になったとき。
- c. 確定書面に「Aホテルの海の見えるスタンダードツインルームに宿泊」と記載されていたが、Aホテルの過剰予約受付のため、Aホテルの海の見えないスイートルームに変更になったとき。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c

(16) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「特別補償規程」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行参加中の事故によって、旅行者の身体に被った傷害を担保する保険契約がある場合は、旅行業者は、旅行業者が支払うべき補償金の額を減額することがある。
- イ. 旅行参加中の旅行者の闘争行為によって、当該旅行に参加している他の旅行者が傷害を被り7日間の通院をした場合、旅行業者は、当該傷害を被った他の旅行者に通院見舞金を支払う。
- ウ. 添乗員、旅行業者の使用人または代理人による受付が行われない場合において、旅行者がサービスの提供を受ける最初の運送・宿泊機関等が航空機であるときは、乗客のみが入場できる飛行場構内における手荷物の検査等の完了時から「企画旅行参加中」となる。
- エ. 単なる外観の損傷であって補償対象品の機能に支障をきたさない損害については、旅行業者は、携帯品損害補償金を支払わない。

(17) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「特別補償規程」の「携帯品損害補償」に関する次の記述のうち、携帯品損害補償金の支払いの対象となるものはどれか。

- ア. 旅行者が洗面台で誤って流してしまったコンタクトレンズ
- イ. 旅行者がホテルに置き忘れたスマートフォン
- ウ. 旅行者が盗難にあった航空券
- エ. スーツケースに入れていた液体化粧品が流出したため、機能に支障をきたしたデジタルカメラ

(18) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア。「手配旅行契約」とは、旅行業者が旅行者の委託により、旅行者のために代理、媒介又は取次をすること等により旅行者が運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配し、旅程を管理することを引き受ける契約をいう。
- イ。「旅行代金」とは、旅行業者が旅行サービスを手配するために、運賃、宿泊料その他の運送・宿泊機関等に対して支払う費用及び旅行業者所定の旅行業務取扱料金（変更手数料及び取消手数料金を除く。）をいう。
- ウ。旅行業者は、いかなる場合も口頭による申込みを受け付けることはない。
- エ。旅行業者は、契約の履行に当たって、本邦内の手配の一部を手配代行者に代行させることはできず、すべての手配を旅行業者自らが行う必要がある。

(19) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア。旅行業者が善良な管理者の注意をもって旅行サービスの手配をしたときは、契約に基づく旅行業者の債務の履行は終了する。
- イ。旅行業者は、旅行開始前において、運送・宿泊機関等の運賃・料金の改訂、為替相場の変動その他の事由により旅行代金の変動を生じた場合は、当該旅行代金を変更することがある。この場合において、旅行代金の増加は旅行者に、減少は旅行業者に帰属する。
- ウ。旅行者の責に帰すべき事由により契約が解除されたときは、旅行者は、いまだ提供を受けていない旅行サービスに係る取消料、違約料その他の運送・宿泊機関等に対して既に支払い、又はこれから支払わなければならない費用を負担するほか、旅行業者に対し、旅行業者所定の取消手数料金及び旅行業者が得るはずであった取扱料金を支払わなければならない。
- エ。旅行業者は、書面による特約をもって、申込金の支払いを受けることなく、契約の締結の承諾のみにより契約を成立させることがある。

(20) 旅行相談契約の部に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア。旅行業者は、業務上の都合を理由に、契約の締結を拒否することはできない。
- イ。旅行業者は、申込書の提出を受けることなく電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による契約の申込みを受け付けることがある。この場合において、契約は、旅行業者が契約の締結を承諾した時に成立する。
- ウ。旅行業者は、契約の履行に当たって、旅行業者が故意又は過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害発生の日から起算して3月以内に当該旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責に任ずる。
- エ。旅行業者が相談に対する旅行業務取扱料金を収受することを約して、旅行者の委託により、旅行者が旅行の計画を作成するために必要な助言を行う業務を引き受けるだけでは旅行相談契約とはならない。



**2. 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. バス会社は、契約責任者若しくは旅客が乗車券を紛失した場合、契約責任者の請求により、配車の日の前日において乗車券の再発行に応じる。
- イ. バス会社は、天災その他の事由により輸送の安全の確保に支障が生ずるおそれがあるときには、運行行程の変更、一時待機、運行の中止その他の措置を講ずることがある。
- ウ. バス会社は、旅行業者が手配旅行の実施のため、バス会社に旅客の運送を申し込む場合には、当該旅行業者を契約責任者として運送契約を結ぶ。
- エ. バス会社は、常時取引のある者との間で運賃及び料金の支払時期について特別の定めをすることがある。

**3. 海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款（フェリーを含む一般旅客定期航路事業に関する標準運送約款）に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものを1つ選びなさい。**

- a. フェリー会社が連絡運輸に係る運送を引き受ける場合は、フェリー会社は、全運送区間の運送に対する運賃および料金その他の費用を収受し、これと引き換えに全運送区間の運送に対する連絡乗車船券を発行する。
- b. 運賃及び料金に変更された場合において、その変更前にフェリー会社が発行した乗船券は、その通用期間内に限り、有効とする。
- c. 乗船券は、券面記載の乗船区間、通用期間、指定便（乗船年月日及び便名又は発航時刻が指定されている船便）、等級および船室に限り、使用することができる。

- ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, c                      エ. a, b, c

**4. 国内旅客運送約款（日本航空・全日本空輸）に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. 航空会社が航空券を発行する日において有効な運送約款及びこれに基づいて定められた規定が、旅客の運送に適用される。
- イ. 旅客に同伴される飼いや馴らされた小犬、猫、小鳥等の愛玩動物について、航空会社は、受託手荷物として運送を引き受ける。
- ウ. 航空会社は、別段の定めのある場合を除き、普通席の運賃を支払った旅客の受託手荷物が20キログラムを超える場合には、航空会社が別に定める超過手荷物料金を申し受ける。
- エ. 手荷物及び旅客が装着する物品の価額の合計が15万円を超える場合には、旅客はその価額を申告することができる。この場合には、航空会社は、従価料金として、申告価額の15万円を超える部分について1万円毎に10円を申し受ける。

**5. 旅客鉄道会社（JR）の旅客営業規則に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. 急行券を所持する旅客は、列車が遅延した場合において、新幹線においては着駅到着時刻に1時間以上、他の急行列車においては着駅到着時刻に2時間以上遅延して到着したときは、急行券の全額の払いもどしの請求をすることができる。
- イ. 普通乗車券又は普通急行券は、同時に使用する指定券を発売する日又は呈示した日から発売する。
- ウ. 団体乗車券の発売対象となる「訪日観光団体」とは、一団となった旅客の全員が、利用施設・発着駅及び経路を同じくし、その全行程を同一の人員で旅行する訪日観光客8人以上又はこれと同行する旅行者（ガイドを含む。）とによって構成された団体で、責任のある代表者が引率するものをいい、かつ、旅客営業規則に定める者が発行した訪日観光団体であることの証明書を所持するものに限られる。
- エ. 「乗車券類」とは、乗車券、急行券、特別車両券、寝台券、コンパートメント券及び座席指定券をいう。

**6. モデル宿泊約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。**

- ア. ホテル（旅館）は、宿泊客の手荷物が、宿泊に先立ってホテル（旅館）に到着した場合は、その到着前にホテル（旅館）が了解したときに限って責任をもって保管する。
- イ. ホテル（旅館）が宿泊契約の申し込みを承諾するに当たり、申込金の支払いを求めなかった場合及び申込金の支払期日を指定しなかった場合は、宿泊客が申込金の支払いを要しないこととする特約に応じたものとして取り扱う。
- ウ. ホテル（旅館）は、宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金を申し受ける。
- エ. 宿泊客がホテル（旅館）の駐車場を利用する場合において、当該ホテル（旅館）が車両のキーを預かっているときに限り、ホテル（旅館）は車両の管理責任を負う。

### 3 国内旅行実務

#### 1. 以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 木曾川沿いの城で、別名“白帝城”とも呼ばれる国宝の天守閣を持つ城は、次のうちどれか。

- ア. 松本城                      イ. 丸岡城                      ウ. 犬山城                      エ. 丸亀城

(2) 敦賀湾の最奥部に位置し、アカマツ、クロマツが海岸線約1.5kmに渡って続く、日本三大松原の一つともいわれる景勝地は、次のうちどれか。

- ア. 気比の松原                      イ. 津田の松原                      ウ. 虹の松原                      エ. 三保の松原

(3) “撞木（しゅもく）造り”と呼ばれる構造の本堂は国宝であり、平成27年には数えて7年に一度の前立本尊の「御開帳」が行われた寺院は、次のうちどれか。

- ア. 延暦寺                      イ. 金剛輪寺                      ウ. 瑞巖寺                      エ. 善光寺

(4) 別名“伯耆富士”とも呼ばれる中国地方の最高峰で、その名を冠したキャラボクの群生や天台宗の古刹があることでも知られる山は、次のうちどれか。

- ア. 三瓶山                      イ. 大山                      ウ. 白山                      エ. 英彦山

(5) 志摩半島の南部に位置し、賢島をはじめとした大小さまざまな島が浮かぶ、真珠の養殖でも知られるリアス海岸の景勝地は、次のうちどれか。

- ア. 英虞湾                      イ. 大王崎                      ウ. 知多湾                      エ. 二見浦

(6) 北海道のほぼ中央に位置し、なだらかな丘陵の風景から“丘のまち”とも呼ばれ、毎年秋にはサイクリングイベント「センチュリーライド」が行われる町は、次のうちどれか。

- ア. 斜里                      イ. 白老                      ウ. 美瑛                      エ. 小清水

(7) 桂川の中流部に位置し、亀岡市から嵯峨嵐山までの約16kmの溪流では舟下りも楽しめる京都府を流れる河川の呼称は、次のうちどれか。

- ア. 宇治川                      イ. 貴船川                      ウ. 天竜川                      エ. 保津川

2. 日本国内における国立公園・世界遺産・ラムサール条約に関する以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 国立公園とは、日本の風景を代表するに足りる傑出した自然の風景地で、環境大臣が自然公園法の規定により指定する。
- イ. 世界遺産とは、ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」に基づき登録されるもので、日本では1993年に「白神山地」「屋久島」「古都京都の文化財」「法隆寺地域の仏教建造物」の4件がはじめて登録された。
- ウ. 日本の世界遺産のうち、自然遺産に登録されているのは、「白神山地」「屋久島」「知床」「小笠原諸島」の4件のみである。
- エ. ラムサール条約とは、正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、日本にも釧路湿原、琵琶湖、尾瀬などの条約湿地が各地に存在する。

(2) 次の建造物のうち、世界遺産（文化遺産）の構成資産として登録されていないものはどれか。

- ア. 出雲大社            イ. 毛越寺            ウ. 金剛峯寺            エ. 富士山本宮浅間大社

(3) 2008年にラムサール条約に登録された“白鳥の渡来地”としても知られる新潟県北部の湖沼は、次のうちどれか。

- ア. 伊豆沼・内沼    イ. 風蓮湖            ウ. 瓢湖            エ. 三方五湖

(4) 上信越高原国立公園の一部を分離独立し、2015年3月27日に32番目の国立公園として指定された「妙高戸隠連山国立公園」の観光地について、その区域内にないものは、次のうちどれか。

- ア. 飯縄山            イ. 黒姫山            ウ. 野尻湖            エ. 志賀高原

(5) 「中部山岳国立公園」の観光地について、その区域内にあるもののみをすべて選んでいるものは、次のうちどれか。

〈観光地〉    a. 上高地    b. 香嵐溪    c. 御岳昇仙峡    d. 立山

- ア. a, b            イ. a, d            ウ. a, c, d            エ. b, c, d

3. 以下の各設問の行程について、前後に最も近い観光地を、選択肢の中からそれぞれ1つ選んで  を埋め、モデルコースを完成させなさい。

(1) 新千歳空港 — 小樽運河 —  蒸溜所 — ニセコ高原 — 大沼 — 函館空港

ア. 帯広                      イ. 富良野                      ウ. 北見                      エ. 余市

(2) 萩・石見空港 — 松下村塾 —  — 秋芳洞 — 山口宇部空港

ア. 金子みすゞ記念館                      イ. 小泉八雲記念館  
ウ. 壺井栄文学館                      エ. 椋鳩十文学記念館

(3) 福井駅 — 一乗谷朝倉氏遺跡 —  — 東尋坊 — 小松空港

ア. 善通寺                      イ. 建長寺                      ウ. 永平寺                      エ. 輪王寺

(4) 別府駅 — 由布院温泉 —  — 阿蘇山 — 熊本駅

ア. 雲仙温泉                      イ. えびの高原                      ウ. 唐津                      エ. 久住高原

(5) 盛岡駅 — 小岩井農場 —  — 角館 — 秋田駅

ア. 桧原湖                      イ. 田沢湖                      ウ. 十和田湖                      エ. 奥只見湖

4. 以下の各設問の組合せについて、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次のテーマパーク・アミューズメント施設と観光地の組合せのうち、その所在地が同じ都道府県内でないものはどれか。

〈テーマパーク・アミューズメント施設〉	—	〈観光地〉
ア. アドベンチャーワールド	—	那智滝
イ. 池田町ブドウ・ブドウ酒研究所	—	天人峡
ウ. ハウステンボス	—	天草諸島
エ. ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	—	天王寺公園

(2) 次の観光地の組合せのうち、その所在地が同じ都道府県内でないものはどれか。

ア. オシンコシンの滝	—	羊蹄山	—	サロベツ原生花園
イ. 戦場ヶ原	—	吾妻溪谷	—	鬼押出し
ウ. 帝釈峡	—	耕三寺	—	巖島神社
エ. 志賀島	—	太宰府天満宮	—	門司港レトロ地区

(3) 次の温泉地の組合せのうち、その所在地がすべて同じ都道府県内にあるものはどれか。

- ア. 熱川温泉 —— 伊東温泉 —— 寸又峡温泉
- イ. 石和温泉 —— 下部温泉 —— 別所温泉
- ウ. 宇奈月温泉 —— 山代温泉 —— 瀬波温泉
- エ. 男鹿温泉 —— 玉川温泉 —— 天童温泉

(4) 次の府県で催される祭り・行事と開催月の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- |    | 〈府県：祭り・行事〉 |        | 〈開催月〉  |
|----|------------|--------|--------|
| ア. | 京都府        | ： 葵祭   | —— 5月  |
| イ. | 島根県        | ： 鷲舞   | —— 10月 |
| ウ. | 福井県        | ： お水送り | —— 3月  |
| エ. | 山形県        | ： 花笠祭り | —— 8月  |

5. 次の文章を読み、以下の各設問について該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

観光資源には、名所・旧跡や自然景観だけではなく、各地の有形・無形の文化も含まれる。中でも、「食」についてはその土地を代表する郷土料理や名産品が各地にあり、旅の楽しみのひとつとなっている。古くからの歴史を持つものも多く、(a)石川県の **A** は代表的な加賀料理として、(b)静岡県の安倍川もちや東海道の名物として江戸時代から知られている。また、その土地の旧国名を冠した名物も多く、(c)さぬきうどん、筑前煮(がめ煮)などはその代表例である。

(1) 下線(a)の七尾湾に面し、“海の温泉”といわれるほど塩分が高い泉質を持つ能登半島の温泉は、次のうちどれか。

- ア. 芦原温泉
- イ. 湯野浜温泉
- ウ. 山中温泉
- エ. 和倉温泉

(2) 空欄 **A** に入る郷土料理として正しいものは、次のうちどれか。

- ア. のっぺい汁
- イ. 朴葉みそ
- ウ. じぶ煮
- エ. マスずし

(3) 下線(b)の伊豆半島に位置し、弘法大師が開創したという古刹や、この温泉の発祥とされる“独鈷(とっこ)の湯”があることでも知られる温泉は、次のうちどれか。

- ア. 修善寺温泉
- イ. 土肥温泉
- ウ. 堂ヶ島温泉
- エ. 蓮台寺温泉

(4) 下線(c)が名物である都道府県と同じ都道府県内で催される祭りとして正しいものは、次のうちどれか。

- ア. おはら祭
- イ. 金刀比羅宮例大祭
- ウ. 笹崎宮玉取祭
- エ. 郡上おどり

6. 貸切バスによる運送に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次の行程（日帰り）を貸切バスで運行するときの運賃について、各設問に該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(注1) 「一般貸切旅客自動車運送事業の運賃・料金の変更命令について（平成26年3月26日付 関東運輸局長公示）」によるものとする。

(注2) 配車場所から旅行出発まで、及び、終着地から帰庫開始までの間は、当該貸切バスは停車しており走行していないものとする。

〈行程〉（日帰り）

	出庫	配車場所 (乗車)	旅行出発	終着地 (降車)	帰庫開始	帰庫
	9:00	9:20	9:30	14:00	14:05	14:25

点呼・点検時間	回送時間	旅客乗車	実車走行	旅客降車	回送時間	点呼・点検時間
1時間 (60分)	20分	10分	4時間30分 (270分)	5分	20分	1時間 (60分)
	回送距離	(停車)	実車走行	(停車)	回送距離	
	7キロ	0キロ	200キロ	0キロ	7キロ	

① 時間制運賃を求めるための時間のうち、正しいものはどれか。

- ア. 5時間分が必要である。
- イ. 6時間分が必要である。
- ウ. 7時間分が必要である。
- エ. 8時間分が必要である。

② キロ制運賃を求めるための走行距離のうち、正しいものはどれか。

- ア. 200キロ分が必要である。
- イ. 210キロ分が必要である。
- ウ. 214キロ分が必要である。
- エ. 220キロ分が必要である。

(2) 配車日が8月20日、1台あたりの運賃及び料金を10万円で契約した貸切バス6台の運送契約を、契約責任者の都合で8月6日に2台減車した。この場合における違約料について、正しいものはどれか。

(注) 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款によるものとする。

- ア.  $100,000円 \times 20\% \times 1台 = 20,000円$
- イ.  $100,000円 \times 30\% \times 1台 = 30,000円$
- ウ.  $100,000円 \times 20\% \times 2台 = 40,000円$
- エ. 違約料は不要である。

## 7. 宿泊に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

(注1) モデル宿泊約款によるものとする。

(注2) 選択肢ア.ウ.は、サービス料及び消費税等諸税の計算は行わないものとする。

(注3) 選択肢エ.は、ホテルから団体客に対し申込金の支払いを求めているが、契約を解除したときの違約金支払義務について告知しているものとする。

ア. 大人料金が1人あたり10,000円の旅館において、大人に同伴された小学生が子供用食事と寝具の提供を受けたときの子供料金は5,000円である。

イ. シングルルーム1泊1室あたりの基本宿泊料(室料)が10,000円のホテルにおいて、大人1人と1泊の宿泊契約が成立した場合、当該ホテルが定めることができる申込金の額の限度は5,000円である。

ウ. 基本宿泊料(室料)が10,000円、チェックアウトが午前10時と定められたホテルで、午後3時まで客室を延長利用したときの時間外追加料金は5,000円である。

エ. 宿泊日の7日前に20名で1泊する宿泊契約をホテルと締結した団体客が、宿泊当日に契約の一部を解除し18名となった場合、当該ホテルは、解除となった2名分の違約金は収受しない。

## 8. フェリーによる運送に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

(注)「海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款(フェリーを含む一般旅客定期航路事業に関する標準運送約款)」によるものとする。また、年齢は乗船日現在とする。

ア. 2等船室の旅客運賃が大人1,000円、1等船室の旅客運賃が大人2,000円、自動車航送運賃が10,000円のフェリーに、大人2人(自動車の運転者1人を含む)が1等船室に乗船する場合、この乗船に係る運賃の合計額は13,000円である。

イ. 指定制の座席ではない2等船室の旅客運賃が大人1,000円、小児500円のフェリーに、大人1人が2歳と4歳の小児2人を同伴して当該船室に乗船する場合、この乗船に係る運賃の合計額は1,000円である。

ウ. 2等船室の旅客運賃が大人1,000円、特殊手荷物運賃が2,000円のフェリーに、手回り品として取り扱うことができない自転車の運送を伴う大人1人が乗船する場合、この乗船に係る運賃の合計額は2,000円である。

エ. 旅客運賃1,000円、急行料金1,000円を収受する急行便が、所定の所要時間以内の時間でフェリー会社が定める時間以上遅延して到着した場合において、当該急行便の旅客が払戻しの請求をしたときは、フェリー会社は旅客運賃と急行料金の合計額の2,000円を払い戻す。

## 9. 航空による運送に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 全日本空輸の「往復運賃」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

ア. 往復運賃は、出発前に往復かつ同時に航空券を購入する必要がある。

イ. 往復運賃の予約・発売期間は、搭乗日2ヵ月前の指定時刻から搭乗日3日前の指定時刻までである。

ウ. 往復運賃は、同一区間を5日以内に往復する場合に限り適用される。

エ. 往復運賃は、予約便の変更及び航空券の名義の変更ができる。



(2) 国内航空2社（日本航空・全日本空輸）による国内航空運送に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 片道運賃（全日本空輸）を適用して搭乗する航空機を、搭乗日当日に予約した場合、当該航空券の購入期限は、予約便出発時刻の20分前までである。
- イ. 13歳の旅客1人が座席を使用しない2歳の旅客1人を同伴する場合に必要な運賃は、13歳の旅客の1人分である。
- ウ. 小児普通運賃（日本航空）を適用した航空券は、旅客の都合により払い戻すときであっても払戻手数料は不要である。
- エ. 航空会社は、非常脱出時における援助者の確保のため、満15歳未満の者が非常口座席に着席することを拒絶し、他の座席へ変更することができる。

**10. 旅客鉄道会社（JR）に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。**

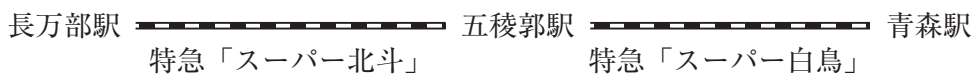
(1) 旅客営業規則に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 学生が東北新幹線の東京駅～新青森駅間（片道の営業キロは713.7キロ）を、往路7月1日、復路7月12日で往復乗車するとき、学生割引と往復割引を重複して適用する。
- イ. 小学生の学生団体は、指定学校の児童15人以上がその学校の教職員に引率されて旅行する場合に適用され、当該児童の団体旅客運賃は1年を通して大人普通運賃の5割引である。
- ウ. 指定席特急券を所持する旅客が、旅客の都合により乗り遅れた場合、指定席特急料金の3割に相当する額の手数料を支払うことにより、当日の他の列車の指定席特急券に変更することができる。
- エ. 大人1人、6歳の小学生1人、幼児3人が共に、普通列車の自由席を利用する場合、大人1枚と小児1枚の乗車券で乗車することができる。

(2) 乗継割引に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) いずれも最初の列車の乗車日当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。

ア. 「スーパー北斗」に乗継割引が適用される。



イ. 「能登かがり火」のJR七尾線〈津幡駅～和倉温泉駅〉区間に乗継割引が適用される。

(注) 金沢駅～津幡駅区間はIRいしかわ鉄道



ウ. 「サンライズ瀬戸」に乗継割引が適用される。

(注) サンライズ瀬戸は普通車指定席（ノビノビ座席）を利用



エ. 乗継割引が適用される列車はない。



(3) 次のJR券に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

<b>新幹線自由席特急券 / 特定特急券</b>	
<b>京 都 → 東京・品川</b>	
4月15日から <b>イ</b> 日間有効 ××××××××××	
指定席への変更は指定席特急料金との差額が必要	
¥ ××××	
27. - 3. 24	
<b>見 本</b>	

〈資料〉

東海道・山陽新幹線 指定席特急料金（通常期）  
〔のぞみ〕 京都～東京・品川 5,700円  
〔ひかり〕〔こだま〕 京都～東京・品川 5,390円

ア. このJR券を4月14日に払いもどした場合の払いもどし額は4,960円である。

イ. このJR券の有効期間（上記JR券の **イ** に記載される有効期間）は1日間である。

ウ. 旅客の都合で、この券面区間の途中駅である新横浜で旅行を中止し、払いもどしの請求をしたとき、京都～東京・品川間の自由席特急料金と京都～新横浜間の自由席特急料金の差額から、所定の払いもどし手数料を差し引かれ返金される。

エ. このJR券は券面区間の全部または一部を問わず、〔のぞみ〕の自由席は利用できない。

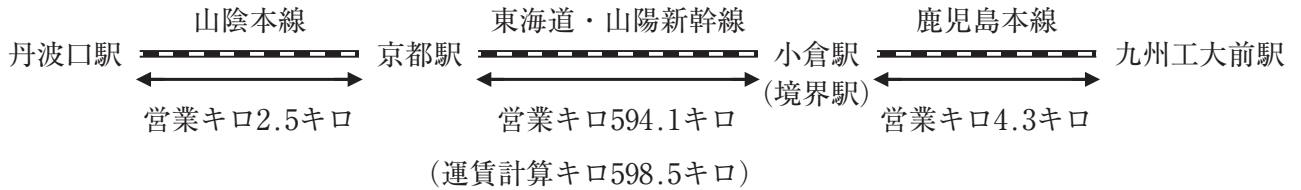
(4) 大人1人が、次の行程を途中下車せずに日帰りで往復乗車する場合の運賃について、資料に基づき、正しいものを選びなさい。

(注1) 丹波口駅は京都市内に属する駅で、京都市内の中心駅は京都駅である。

(注2) 九州工大前駅は北九州市内に属する駅で、北九州市内の中心駅は小倉駅である。

(注3) この行程におけるJR西日本とJR九州の境界駅は小倉駅である。

〈行程〉



〈資料〉

本州3社内の幹線の普通運賃表(抜粋)

営業キロ(運賃計算キロ)	片道運賃(基準額)
581~600キロ	9,290円
601~640キロ	9,610円

本表は、本州3社とJR北海道、JR四国、JR九州とにまたがって利用する場合は基準額表として使用する。

JR九州内の加算額表(抜粋)

境界駅からの営業キロ(運賃計算キロ)	加算額
4~6キロ	20円

ア.  $(9,610円 + 20円) \times (1 - 0.1) = 8,667 \rightarrow$  は数整理  $\rightarrow 8,660円$   
 $8,660円 \times 2 = \boxed{17,320円}$

イ.  $9,610円 \times (1 - 0.1) = 8,649 \rightarrow$  は数整理  $\rightarrow 8,640円$   
 $8,640円 \times 2 = \boxed{17,280円}$

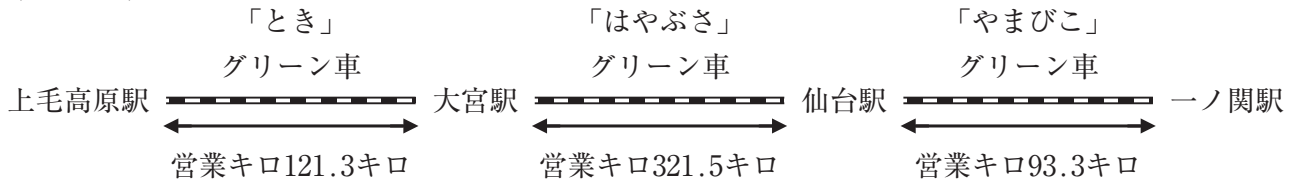
ウ.  $(9,290円 + 20円) \times 2 = \boxed{18,620円}$

エ.  $9,290円 \times 2 = \boxed{18,580円}$

(5) 大人1人が、次の行程を新幹線の改札口を出ないで乗り継ぐ場合のグリーン料金及び特急料金について、資料に基づき、以下の各設問に該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(注) グリーン車は、いずれの列車ともグランクラスを利用しないものとする。

〈行程〉



〈資料〉

東北・山形・秋田、上越、北陸新幹線のグリーン料金（抜粋）

営業キロ	100キロまで	200キロまで	300キロまで	400キロまで	500キロまで	600キロまで
グリーン料金	1,030円	2,060円	3,090円	4,110円	4,110円	4,110円

上越新幹線〔とき〕〔Max とき〕〔たにがわ〕〔Max たにがわ〕普通車指定席特急料金（通常期）

上毛高原	
3,110円	大宮

東北新幹線〔はやて〕〔やまびこ〕〔なすの〕普通車指定席特急料金（通常期）

大宮		
4,740円	仙台	
5,270円	2,360円	一ノ関

東北新幹線〔はやぶさ〕普通車指定席特急料金（通常期）

大宮	
5,050円	仙台
5,680円	一ノ関

① グリーン料金の合計額について、正しいものはどれか。

ア. 上毛高原駅～大宮駅、営業キロ121.3キロ・・・2,060円  
大宮駅～仙台駅、営業キロ321.5キロ・・・4,110円  
仙台駅～一ノ関駅、営業キロ93.3キロ・・・1,030円  
 $2,060円 + 4,110円 + 1,030円 = \boxed{7,200円}$

イ. 上毛高原駅～大宮駅、営業キロ121.3キロ・・・2,060円  
大宮駅～仙台駅～一ノ関駅を通算し営業キロ414.8キロ・・・4,110円  
 $2,060円 + 4,110円 = \boxed{6,170円}$

ウ. 上毛高原駅～大宮駅～仙台駅を通算し営業キロ442.8キロ・・・4,110円  
仙台駅～一ノ関駅、営業キロ93.3キロ・・・1,030円  
 $4,110円 + 1,030円 = \boxed{5,140円}$

エ. 上毛高原駅～大宮駅～仙台駅～一ノ関駅を通算し営業キロ536.1キロ・・・4,110円  
 $\boxed{4,110円}$

② 特急料金の合計額について、正しいものはどれか。

ア. 上毛高原駅～大宮駅～仙台駅～一ノ関駅  
 $3,110円 + 5,050円 + 2,360円 - 520円 = \boxed{10,000円}$

イ. 上毛高原駅～大宮駅  $3,110円 - 520円 = 2,590円$   
大宮駅～仙台駅  $5,050円 - 520円 = 4,530円$   
仙台駅～一ノ関駅  $2,360円 - 520円 = 1,840円$   
 $2,590円 + 4,530円 + 1,840円 = \boxed{8,960円}$

ウ. 上毛高原駅～大宮駅  $3,110円 - 520円 = 2,590円$   
大宮駅～仙台駅～一ノ関駅  $5,680円 - 520円 = 5,160円$   
 $2,590円 + 5,160円 = \boxed{7,750円}$

エ. 上毛高原駅～大宮駅  $3,110円 - 520円 = 2,590円$   
大宮駅～仙台駅～一ノ関駅  $5,270円 + (5,050円 - 4,740円) - 520円 = 5,060円$   
 $2,590円 + 5,060円 = \boxed{7,650円}$

〈以 上〉